○3 番（宮原隆昌君）
3 番宮原です。
まず、最初に戸形地区の活性化について質問いたします。
昨年は、戸形小学校裏山に群生しているリュウゼツランの数十年に 1 度の開花がニュースになり、たくさんの見学者が訪れました。
また、今年も 4 月になれば、戸形地区の風物詩である、海の上を泳ぐ鯉のぼりが見られます。毎年のことながら、関係者の皆さまには頭が下がる思いです。
さて、戸形小学校跡地を含めた戸形地区の活性化について、過去何度か一般質問をしてまいりましたが、昨年 4 月に戸形地区の住民に対して実施した、戸形小学校跡地の利活用に関するアンケート結果を公表後、約 1 年が過ぎようとしています。
南海トラフ地震が危惧される中、校舎を利用している戸形公民館は、豊島公民館とともに耐震性に問題があり、早急な対策が必要と考えます。
また、緊迫した財政難を考えますと、旧戸形幼稚園や、使われてない町有地の売却を進める必要があると思いますが、戸形地区の活性化や課題を協議する協議会等の現在の状況についての、説明を求めます。
○議長（濵野良一君）
総務課長　濵口浩司君。
○総務課長（濵口浩司君）
宮原議員のご質問にお答えいたします。
昨年 3 月に実施した、戸形小学校跡地の利活用に係るアンケート調査につきましては、結果を公表させていただいたところでございますが、改めて簡単に触れておきますと、まずアンケートの回収率は、アンケート配布枚数 628 枚に対し、回答数 369 枚で 58.7%、跡地の利活用に関心があるかどうかの質問では 63.4%が関心があるとの回答。民間による利活用の検討には賛成、どちらかといえば賛成が 50.1%。反対、どちらかといえば反対が 13.6%。どちらとも言えないが、33.1%という結果で、その一方で、住民説明会への参加率は 17.3%と低い数値となりました。
こうした結果を踏まえ、令和 6 年 9 月に地域の方々が主体的に戸形地区地域活性化協議会を設立しました。
その会員は、各自治会の他、スポーツ協会、老人会、子ども会、及び婦人会の役員の皆さまで、総数 19 名で構成されております。
その後、令和 7 年 1 月に戸形地区 3 自治会長にお集まりいただき、今後の協議会の進め方等について事前に協議いたしました。
現在、この事前協議でいただいたご意見に対し、資料を整理しておる状況でございます。

資料が整えば第1回協議会を開催すべく、日程調整したいと考えております。
なお、第 1 回協議会では避難所等の議題の他、戸形幼稚園跡地についてもご意見をお伺いしたいと考えております。
○議長（濵野良一君）
宮原隆昌君。
○3 番（宮原隆昌君）
戸形地区の活性化につきましては、今後協議会の中で十分話し合っていただくことになると思いますが、戸形地区につきましては、まだまだ魅力ある場所があります。
例えば、重岩の奥の大深山の頂上には、第二次世界大戦時に作られた天空の要塞、防空監視哨が残されておりまして、新たな観光スポットの 1 つとしての可能性があると思います。
また、小瀬地区には移住者による古民家を改装したカフェもできているようです。
今後状況によりまして戸形地区の協議会に協力してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。
それでは、次の質問です。
今年は合併 70 周年を迎えます。
土庄町という町名は長らく愛されてきました。しかしながら、全国的に見ても、その「とのしょうちょう」と読める人が少なく、小豆島というブランドと土庄町を結びつけるのは難しく、観光客が最も多く利用している、インターネット検索においても、認識間違いにより混乱が少なからず起こっております。
また、ふるさと納税でも、全国から小豆島の特産物の返礼品を求めて、多くの寄付をいただいておりますが、間違って他町に寄付したという話はよく聞きます。
このような事例は、町長も施政方針の中で、町名が小豆島と結びつかない大きなハンデがあると述べられております。
町名は町民にとっての根幹ともいえる重要なものであり、町名の変更については多くの町民の理解を得る必要があります。
そして変更に係る手続きは、地方自治法によって定める町議会の議決が必要で、それ以前に、町民への情報提供、意見聴取、アンケートなどが必要です。
仮に町名を漢字で「小豆島」、ひらがなで「とのしょう町」、「小豆島とのしょう町」に変更した場合、小豆島ブランドとしての直接的な効果として、観光、農業、移住定住の分野でも、全国的に通じ、相当な経済効果も考えられると思います。
私は、町長が施政方針で「行政も町民も変えるべきは変え、挑戦すべきは挑戦

していかなきゃならない」とおっしゃっていることはまさにこのことではないかと思っております。
町名変更について、岡野町長はどのようなお考えなのか、お尋ねいたします。
○議長（濵野良一君）
　総務課長　濵口浩司君。
○総務課長（濵口浩司君）
　宮原議員のご質問にお答えいたします。
　宮原議員から、町名変更を検討してはとの提案をいただきました。
　土庄町が小豆島に存在するまちであると、すぐに結びつかないことによるハンデにつきましては、町といたしましても、ふるさと納税をはじめ、観光、町産品、移住など、様々な分野で認識しているところでございます。
　一方、町名変更となりますと、宮原議員もご指摘のとおり、多くの町民の理解を得る必要があり、議会を始め、町民挙げての機運の盛り上がりが不可欠であります。
　また、実務的には、地方自治法で定める事務手続きのほか、各種行政システムの改修や印刷物や表示物の変更などが必要となり、その影響は民間企業等にも及びます。
　こうしたことから、現時点で町名変更については検討しておりませんが、効果的な情報発信や、認知度アップの関係観点から、インターネットを含む様々な広報媒体で、町名の前に意識的に「小豆島・豊島」を付け加えるなど、土庄町が小豆島、豊島と結びつくよう、まずはホームページのタイトルを「小豆島・豊島の土庄町公式ホームページ」に変更しております。
　今後、事業名や施策名にも小豆島、豊島を冠したり、土庄町にふりがなをつけるなど、積極的に土庄町を発信してまいりたいと考えております。
○議長（濵野良一君）
　企画財政課長　佐伯浩二君。
○企画財政課長（佐伯浩二君）
　総務課長からは全般的な観点で答弁があったところですが、私からはふるさと納税における現状や取り組みについて、ご答弁させていただきます。
　ふるさと納税における返礼品におきまして、小豆島の特産品は多くの方からご好評をいただいているところです。
　しかしながら、宮原議員ご指摘の通り寄付者の中には、土庄町に寄付するつもりが誤って他の団体に寄付してしまったというケースがございます。
　こうした誤りが発生する原因としましては、寄付者の多くが、自治体のポータルサイトからではなく、中間業者のポータルサイトから寄付することや、似通った返礼品が多種多様にあることなどが考えられます。

このような事態を受け、寄付者がポータルサイトで小豆島と検索すると、土庄町の返礼品がヒットするよう、返礼品名の先頭に小豆島というキーワードを入れるとともに、町名も明記することで、小豆島と土庄町がうまく結びつくよう対策を講じました。

引き続き多くの中間業者と密に協議を重ねながら、ポータルサイト上での改善はもちろん、その他の媒体でも、一層の工夫と改善を重ねてまいります。

以上でございます。

〇議長（濵野良一君）

宮原隆昌君。

〇3 番（宮原隆昌君）

以上の答弁でホームページはふるさと納税につきまして今できる手だてを講じることはわかりました。

しかしながら、この問題はあらゆる場所や分野で影響していると考えられます。

昨日もインターネット上の記事で、地元民にしか読めないと思う香川県の市町村は、というアンケート調査の結果が出てまして、土庄町が断トツの 1 位であると出ておりました。

私は、町名変更に伴う町民生活への影響、経済効果、ブランド戦略などを検討し、町名変更が、町の利益や未来のまちづくりにメリットがあると判断された後には、実現に向けて、進めていかなければならないと思っております。

今後、町議会内でも協議をお願いして、地方自治法第 99 条による意見書の提出を目指してまいりたいと思いますので、ぜひ、役場内では、プロジェクトチームを立ち上げての検討をお願いして、質問を終わります。